

住民による防犯活動事例調査

[目次]

- 1 . 住民による防犯活動の状況
- 2 . 調査概要
- 3 . 調査事例
- 4 . まとめ

2006年7月
財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
(担当 : 奈良豊・小谷俊哉・西野聖子)

1. 住民による防犯活動の状況

1-1. 防犯活動団体について

警察庁の調査(2005年12月)によると、自主防犯活動を行う防犯ボランティア団体は、全国で19,515団体にのぼりました。また、防犯活動団体を構成する主体は、概ね以下の3つに分類されます。

- 町内会・自治会など地縁組織による団体(53.1%)
- その他の住民によるNPOなどの団体(15.1%)
- 子どもの保護者による団体(14.2%)

町内会・自治会による団体の取り組みが約半数を占めますが、地縁組織によらないNPOや子どもの保護者による団体も急増しています。とくに子どもの保護者による団体は前年比の約4.2倍にのぼり、小学校児童殺害など相次ぐ重大事件による危機感が背景にあると推測されます。

1-2. 主な活動内容

主な活動内容(重複回答)は、「徒歩による防犯パトロール」(80.7%)や「通学路での子どもの保護・誘導」(65.7%)がみられました。また、インターネット等の検索によると、代表的なものとして以下の取り組みがみられ、地域の実情に合わせて取り組んでいる様子わかります。

《防犯活動の例》

防犯パトロール	地域住民による街の見守り活動。声かけ運動や危険箇所の点検、不審者への警戒を行う。青色回転灯装備車やわんわんパトロールなど色々な手法を織り交ぜて展開されている。
通学路での子どもの保護・誘導	児童生徒が下校する時間帯に通学路及びその周辺をパトロール。PTA会員の自転車のかごなどに、「防犯パトロール中」のプレートを掲示する取り組みもみられる。
防犯イベントの開催	専門家による講演会の開催や防犯グッズの配布などを行い、地域住民の防犯意識を啓発する取り組み。
環境美化活動	アメリカの犯罪学者によって提唱された「割れ窓理論」に基づき、環境美化により地域社会の秩序を守る取り組み。主にゴミ拾いや落書き消しを行う。
地域安全マップの作製	犯罪が起こりやすい場所を表示した地図の作成。実際に地域を歩いて危険箇所を確認しながら作製することにより、参加者の防犯意識を高める。
子ども110番ウォークラリー	子ども達がグループになって「子ども110番の家」を一軒一軒歩いて廻る。スタンプを押したり、クイズに答えたり楽しみながら歩く仕組み。
犯罪情報の発信	地域内で発生した犯罪情報を、電子メール等により配信するサービス。地域内の掲示板を使った発信などもみられる。
一戸一灯運動	各家庭で玄関灯や門灯を一晩中点灯させ、まち全体を明るくする取り組み。夜型犯罪の抑止につながる。

防犯灯・センサーライトの設置	夜間の犯罪発生防止のために電柱などに設置。人が通ると点灯する簡易なセンサーライトを地域内に設置する事例も見られる。
民間交番の設置	地元商店会、自治会などが設置する防犯の拠点。ボランティアが常駐して道案内や犯罪相談を受けたり、パトロールの集合場所や待機場所として機能している。

最近、「防犯活動」と「まちづくり」を合わせた「防犯まちづくり」も見られるようになりました。「安全・安心のまちづくり」(日本建築学会)によると、防犯まちづくりとは「従来の防犯活動の幅を広げ、施設の整備等を通して犯行の機会や犯罪被害の不安感を軽減し、『生活の質』の向上をめざす一連の持続的な取組み」と定義されます。前述の《防犯活動の例》では、地域安全マップの作製を通して地域の改善につなげている「防犯まちづくり」的な活動も見られました。今後はそうした展開も期待されます。